

# ファミリーバドミントン

ファミリーバドミントンは、昭和63年に京都で開催された京都国体の「バドミントン競技会場地」となった長岡京市が、手軽にバドミントンを広く親しめる独自のニュースポーツとして考案したものです。



## ファミリーバドミントンの特徴

1. 誰でも手軽に、安い費用でできる。
2. バドミントンコートを使用するため、ほとんどの体育館でプレーできる。
3. バドミントンと比べて、初めての人でも容易にプレーできる。
4. ラケットのシャフトが短いため、手のひらで打つようにシャトルが打てる。
5. スポンジボールに羽根がついているため、スピードが抑えられ、スマッシュが禁止されているので、初めての人でもラリーが続く。



## ファミリーバドミントン競技規則

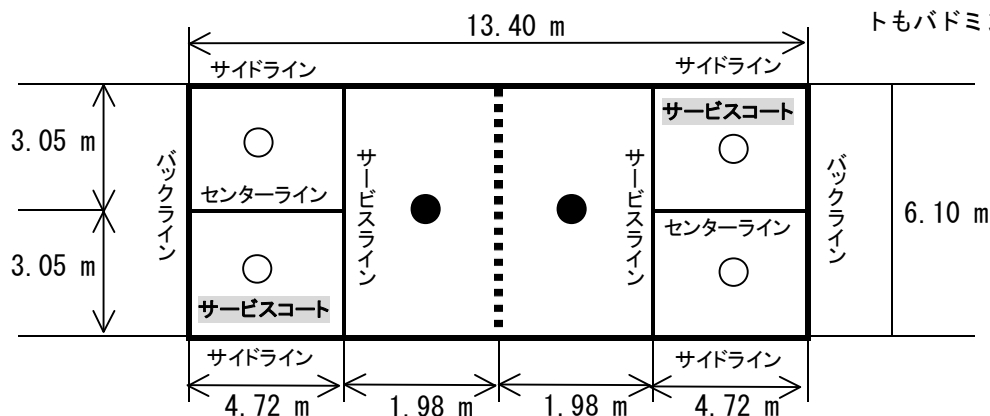
### ☆競技内容

- ① 主審の合図により試合開始します。
- ② 競技者は前衛 (●) 1名、後衛 (○、○) 2名です。
- ③ ジャンケンをして勝った方が「サービス」をとるか「コート」をとるか決めます。
- ④ 2セット目と3セット目は前のセットの勝者が、サービスをします。
- ⑤ メンバーの交替は1セット2名まで。
- ⑥ 得点は1セット15点で、2セットを先に取った方が勝ちとなります。
- ⑦ 14点对14点になったときは2点 (16点) を先取した方が勝ちとなります。
- ⑧ 得点はラリーポイント制です。

### ☆チーム編成

- ① 1チームは6名以内、コート内は3名です。
- ② 1セット中の3名は前衛 (●) 1名、後衛 (○、○) 2名です。

コートは、バドミントンのダブルスコートの広さで、ポールもネットもバドミントンと同じです。



### ☆ルール

- ① サービスは必ず下から打ちます。(ボールが腰より下)
- ② サービスをする人は後衛の右側の人です。

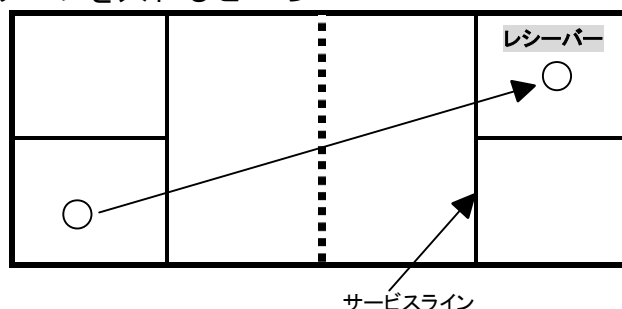
- ③ サーブは相手コートに向かって左側でサービスラインを越えること。
- ④ サーブを受ける人は後衛の右側のひとだけです。
- ⑤ サーブの時踏み出した足は床から離さないでサーブをする。
- ⑥ ボールがネットに触れても正しい位置に入っていればセーフです。
- ⑦ 相手チームからサーブ権が移ってきた時は時計回りに1つ位置を変えます。(後衛の右側にきた人がサービスをする)
- ⑧ 後衛の人は、サービスラインを踏むか又は越えてプレーをすることはできない。また、サイド外でもサービスラインの延長は越えてはいけないものとする。

注) インプレー時に、後衛がサービスラインを越えそうになったとき他の選手がサービスラインの前方より援護した場合はアウトになる。

また、インプレーの時、後衛がサービスラインより前方にラケットを落とした時は相手側が打つか若しくはボールが床に落ちてから拾うのは良いが、その行為より前及び同時はアウトとします。

- ⑨ 前衛の人のコート内の移動は自由です。(センターラインを越えてもよい)
- ⑩ ボールは2回以内で相手コートに返す。(ボールに触れるのは1人1回です)
- ⑪ ボールは必ずネットを越えること。
- ⑫ 打ち合っている内に(ラリー中に)ボールを打った瞬間、打点より下にボールが飛んだ場合はアウトになります。
- ⑬ チェンジコートは各セットが終わった時に行います。但し、3セット目は一方のチームが8点となった時点でいきます。

#### ◎ サーブを入れるところ

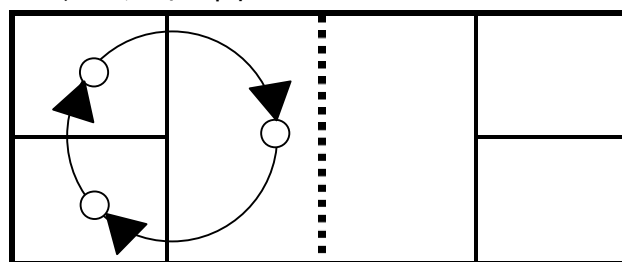


得点をとったら、時計回りにポジション変更。



相手チームのサーブのときに、自分のチームが得点を取った場合は、時計回りに1つ位置を変わり(ローテーション)、後衛の右側にきた人がサーブをします。

#### ◎ ローテーション図



#### ☆反則(相手チームに1点)

- ① オーバーネット・・・ラケットがネットを越えて相手コート内に入ったとき。
- ② タッチネット・・・ラケット及び身体がネットに触れたとき。
- ③ ドリブル・・・一人で連続してボールを打ったとき。
- ④ ホールディング・・・ボールをラケットに乗せて運んだとき。
- ⑤ ラインクロス・・・サーバーがサービスライン及びセンターラインを踏んでサービスをしたとき、また後衛がサービスラインを踏むかまたは越えてボールを打ったとき。

- ⑥ オーバータイムス・・・ボールを相手に返球するのに3回以上打ったとき。
- ⑦ フットフォルト・・・サーブの時踏み出した足（軸足）が床についていなかったとき。1回目は注意、2回目以降は相手の得点になる。（チームで通算するため、違う人がやっても通算2回以上ならその都度相手の得点となる）
- ⑧ スマッシュ行為・・・ボールを打った瞬間、打点より下にボールが飛んだ場合。
- ⑨ 相手のコート内に身体の一部が入ったとき。
- ⑩ ラケットでボールが打たれなかったとき。
- ⑪ サービスが腰から下で打たれなかったとき。1回目は注意、2回目以降は相手の得点となる。（チームで通算する）